

藻類DHAを含有する微細藻類

# ラビリンチュラ

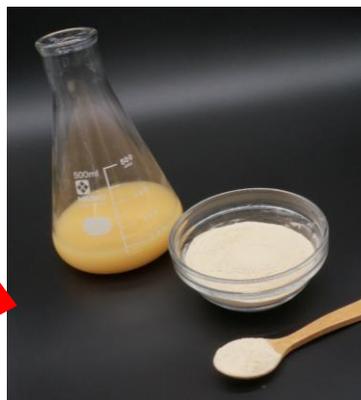
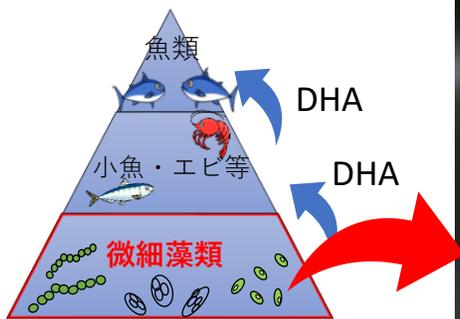
Aurantiochytrium

## ラビリンチュラ(オーランチオキトリウム)

学名 : *Aurantiochytrium limacinum*

直径5~10マイクロメートルの従属栄養性の海産微細藻類  
海岸、海底等の様々な環境に存在し、細胞内の油滴に脂質を多く蓄積している。DHAを多く含んでいるのが特徴である。

### 海の世界連鎖

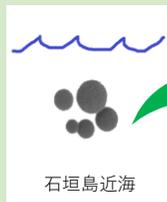


### 藻体まるごと食品へ加工

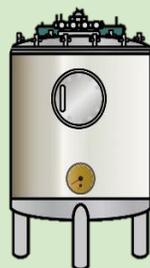
- ヴィーガン向け栄養補助食品に
- パン等の一般加工食品に
- 微細藻類まるごと食べられる自然派食品として

石垣島から採取した優良株※を自社工場にて培養し、藻体まるごと粉末化

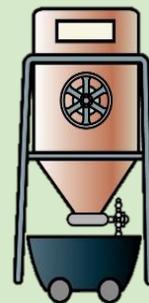
宮崎大との  
共同研究により  
優良株※を選抜



培養



スプレードライ (粉末化)



藻体まるごと粉末

※宮崎大学農学部林教授が保有する数千のライブラリーから高い増殖能とDHA産生能を有する株 (*Aurantiochytrium limacinum* MH2318株) を選抜

■2022年1月販売開始



## 金秀バイオ株式会社

KANEHIDE BIO CO., LTD.

〒901-0306 沖縄県糸満市西崎町5-2-2  
TEL : 098-994-1001 FAX : 098-994-0636



<https://www.kanehide-bio.co.jp/>

## ■製品規格

分析項目	規格値	試験方法
外観・性状	ベージュ～淡い黄土色の粉末	官能評価
一般生菌数	3.0 × 10 <sup>3</sup> 個/g以下	標準寒天培地法
大腸菌群	陰性	BGLB培地法
水分活性	Aw0.5以下	水分活性測定器

荷姿：粉末（1kg/二重袋（外：アルミ 内：透明））  
賞味期限：製造後未開封1年。

加工例：ハードカプセル、一般加工食品など  
安全性：反復投与試験、急性毒性試験  
DHA含有量：暫定5%

## メディア掲載実績

◆健康産業新聞2021年3月17日掲載

### 海洋性微細藻類2素材、産学官連携で開発

金秀バイオ(株)（沖縄県糸満市、☎098-994-1001）は海洋性微細藻類の新素材『ナンノクロロプシス』『ラビリンチュラ（オーランチオキトリウム）』を産学官連携で開発した。3月9日、那覇市内で記者発表会を開催した。

屋外培養による『ナンノクロロプシス』は、稚魚の餌として利用され、稚魚生残率が高いことが確認されている。同社ではその有用性に着目。沖縄県農林水産部栽培漁業センター、東京工業大学生命理工学系の協力のもと、屋内培養による生産を実現させた。屋外培養よりも高密度で培養が可能になったほか、生育期間の短縮化に成功。粉末化した『ナンノクロロプシス』は、EPAをはじめ、ビタミン、ミネラル、アミノ酸など60種類以上の栄養成分を含む。

『ラビリンチュラ』は、宮崎大学農学部と共同研究を行い、沖縄県内各地からラビリンチュラ類を採取・分離し、サプリメントに適した株の選定や、培養条件の最適化などに成功した。藻体をまるごと粉末化した『ラビリンチュラ』は、DHA、タンパク質などを豊富に含み、安全性試験も終えている。発表会に出席した同大学



(左) 金秀バイオ 代表取締役 宮城社長  
(中) 宮崎大学農学部 林教授  
(右) 沖縄県農林水産部 玉城所長

農学部の林雅弘教授は、「抽出したDHAだけを利用するのではなく、藻体全体を利用して食品素材として実用化するのは初めて。SDGsの観点から持続的な生産が可能になったことも喜ばしいこと」と述べた。

同社では、新素材について自社工場内で培養から製品化まで一貫製造できる技術を確認。両素材に沖縄モズク由来フコイダンを配合したサプリメントを自社通販部門で、3月9日から発売した。同社代表取締役の宮城幹夫社長は「DHA・EPAは300～400億円市場とも言われており、まだまだ拡大するマーケット。今後、増産に向けた生産体制の整備を進め、原料・OEM供給も行っていく」と強調。健食向けやビーガン向けのほか、食品原料用途としての展開を図り、フコイダンに続く「沖縄発の新規素材」として育成していく。

◆ヘルスライフビジネス  
2021年3月15日掲載

### 宮城社長「県民の健康長寿に貢献を」 産学官連携で 「沖縄発の微細藻類素材」を開発

金秀バイオ

金秀バイオ(株)（沖縄県糸満市、☎098-994-1001）は、海洋性微細藻類の新素材『ナンノクロロプシス』『ラビリンチュラ（オーランチオキトリウム）』を産学官連携で開発した。3月9日、那覇市内で記者発表会を開催した。

屋外培養による『ナンノクロロプシス』は、稚魚の餌として利用され、稚魚生残率が高いことが確認されている。同社ではその有用性に着目。沖縄県農林水産部栽培漁業センター、東京工業大学生命理工学系の協力のもと、屋内培養による生産を実現させた。屋外培養よりも高密度で培養が可能になったほか、生育期間の短縮化に成功。粉末化した『ナンノクロロプシス』は、EPAをはじめ、ビタミン、ミネラル、アミノ酸など60種類以上の栄養成分を含む。

『ラビリンチュラ』は、宮崎大学農学部と共同研究を行い、沖縄県内各地からラビリンチュラ類を採取・分離し、サプリメントに適した株の選定や、培養条件の最適化などに成功した。藻体をまるごと粉末化した『ラビリンチュラ』は、DHA、タンパク質などを豊富に含み、安全性試験も終えている。発表会に出席した同大学

「沖縄発の微細藻類素材」を開発  
金秀バイオ

金秀バイオ(株)代表取締役 宮城幹夫社長、宮崎大学農学部 林雅弘教授、沖縄県農林水産部 玉城所長が記者発表会に出席している。背景には「産学官連携で開発した海洋性微細藻類素材」のポスターが掲示されている。

「沖縄発の微細藻類素材」を開発  
金秀バイオ

金秀バイオ(株)代表取締役 宮城幹夫社長、宮崎大学農学部 林雅弘教授、沖縄県農林水産部 玉城所長が記者発表会に出席している。背景には「産学官連携で開発した海洋性微細藻類素材」のポスターが掲示されている。

◆QAB（琉球朝日放送）2021年3月10日放映



◆その他掲載

- 健康産業流通新聞 3月25日掲載
- みなと新聞 3月12日掲載
- 沖縄タイムス 3月10日掲載
- 琉球新報 3月10日掲載
- 沖縄テレビ放送 3月11日放映